

	1	表題名(ふりがな)	深瀬のでくまわし(ふかせのでくまわし)		
	2	資料名(ふりがな)	尾口のでくまわし(おぐちのでくまわし)		
	3	作成者(所属)	小阪大(白山市文化財保護課)		
	4	内容分類	地域文化資料		
	5	内容細目	民俗・芸能		
	6	実施年度	令和元年(2019年「)		
	7	地域・場所	石川県白山市鶴来地区深瀬新町		
	8	検索語(キーワード)	深瀬のでくまわし、尾口のでくまわし		
	9	内容	<p>深瀬のでくまわしは、白山麓の旧尾口村深瀬集落に伝わる民俗芸能。集落は昭和52年(1977)に手取川ダム建設のため水没するため北に約25Km離れた白山市鶴来地区深瀬新町に移転した。でくまわしも、移転した新町で移転した人たちによって続けられている。でくまわしとは、頭部をつけた人形に十字に組んだ棒をつけ、服を付けた人形をで芝居を上演するを示す。いわば、人形はでくの棒であり、この人形を人形遣いが廻し演ずることから「でくまわし」と呼ばれる。でくまわしは、現在15名ほどの伝承者によって上演される。毎年、2月の旧正月行事としておこなわれ、2月の中旬の土曜日・日曜日に上演される。現在は、深瀬新町の公民館内に設置された舞台上で上演される。もともと、白山麓の谷合集落の時は、浄土真宗の道場で簡素な腰幕を張った舞台を設置して行われていた。公演は、太夫(だゆう)、人形遣い、太鼓打ちで行わる。人形遣いは2～3名である。1公演は2～3時間である。最初は、三番叟から始まり、演目となる。演目のクライマックスには、舞台から客席に向かって飴玉が一斉にまかれ盛り上がりを見せる。演目が終わると深瀬出身者による「チョイベ」と呼ばれる輪踊りが演じられ終了となる。演目は「源氏烏帽子折」「大職冠」「門出八島」「仮名手本忠臣蔵」である。旧集落から約5km北に東二口のでくまわしが伝承されている。深瀬のでくまわしは、三味線、笛がつかず人形遣いは舞台を足音を立てて音頭をとる。深瀬の人形は、村人が手作りで作成している。現在に承者はこの地で育った世代の</p>		
	10	特色	昭和52年5月17日に東二口の文弥人形浄瑠璃とともに「尾口のでくまわし」として国指定無形民俗文化財に指定された。全国的には薩摩川内市、佐渡市、白山市で伝承されているものしかなく古浄瑠璃として評価されている。		
	11	提示種類	静止画(JPEG)、動画		
	12	関連資料	「尾口のでくまわし」(昭和54年鶴来町教育委員会)		
	13	利用分野	デジタルアーカイブ資料・民俗芸能資料		
	14	ファクトデータ			
	15	プロセス			

	16	結果			
	17	記録媒体	静止画(JPEG)、動画		
	18	権利者(連絡先)	白山市文化財保護課		
	19	協力者(連絡先)	深瀬でくまし保存会		
	20	許諾情報			
	21	利用注意	出演者画像、観客画像の承諾		
	22	登録日	2019年12月24日		